

SG ペガ500 MS M 始業前点検

必ず安全確認をしてからご使用ください。

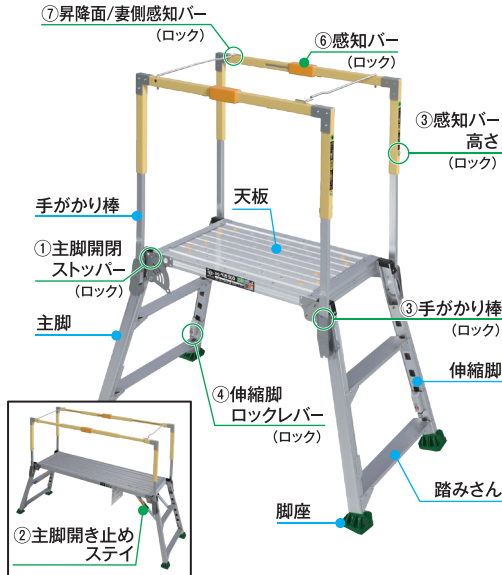
スマートフォンでPDF版を閲覧する



組立方法

ロック確認

- ① 主脚開閉ストッパーがロックされているか？
▶ピンがしっかり出ているか **4箇所**
- ② 主脚開き止めステイがロックされているか？ *Mのみ
▶ステイが上に折れていないか **4箇所**
- ③ 手がかり棒がロックされているか？
▶ピンがロック位置の凹にあるか **4箇所**
- ④ 伸縮脚ロックレバーがロックされているか？
▶レバーが浮いていないか **4箇所**



感知バー高さ・ロック確認

- ⑤ 感知バーの高さが使用時の高さになっているか？
▶固定ピンが使用時の位置にあるか **4箇所**
- ⑥ 感知バーがロックされているか？
▶右端までスライドされているか **2箇所**
- ⑦ 昇降面/妻側感知バーがロックされているか？
▶固定孔に挿し込まれているか **2箇所**

異常の確認

- 1 各部に曲がり・亀裂はないか
主脚 踏みさん 伸縮脚 脚座 天板
手がかり棒 感知バー 昇降面/妻側感知バー
- 2 平らな場所に置いてガタつきがないか？

禁止事項

150kgを超えて載せない。	2人乗りはしない。	背を向けて降りない。飛び降りない。	荷物を持って昇降しない。	不安定な場所で使わない。	乗り出して作業しない。	天板の上に台を載せて使わない。

- 1 天板面を下(逆さ)にして置いて下さい。
- 2 脚開閉ストッパーピンを解除し、主脚を(左右とも)開いて下さい。
※ストッパーが確実にロックされているか確認して下さい。
<注>収納時は「先折側」から折り畳んで下さい。
- 3 天板を持ち、本体を起こして下さい。
- 4 開き止めストッパー(4箇所)をセットして下さい。
- 5 左右の手掛かり棒をセットして組立完了。
- 6 高さ調整のときは、伸縮脚ロックのレバーを引いて左右の伸縮脚を引き出し、確実にロックされているか確認して下さい。
<注>収納時は逆手順となります。

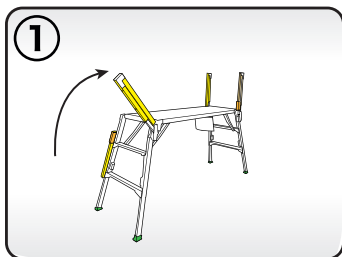
- 設置する時や持ち運ぶ時は配電線に注意すること。
- 感電に注意すること。
- 手を挟まないよう注意すること。
- 人や物を乗せたまま移動しないでください。
- 爪先立ちや片足で立たないでください。
- 持ち運ぶときは引きずったり投げたり乱暴に扱わないでください。
- 改造しないでください。

使用上の注意と禁止事項

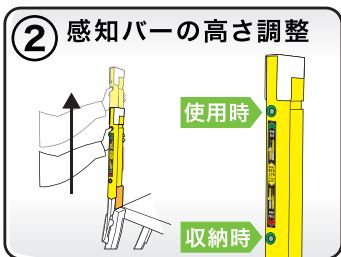
- 作業台としての使用以外には使わないでください。
 - 使う前には各部に異常のないことを確認してください。
 - 天板面が水平になるように設置してください。
 - 使う前には、主脚開閉ストッパー、主脚開き止めストッパー、伸縮脚ロックレバー、手がかり棒ロックピンを確実にロックしてください。
 - 昇降には、手がかり棒を必ず使用してください。
 - 安定しない場所や滑りやすい場所には設置しないでください。
 - 足元や周囲がはっきり見えない暗がりには設置しないでください。
 - 脚部を折り畳んだ状態で使わないでください。
 - 同時に2人以上乗らないでください。
 - 体重と積荷の合計質量が、最大使用質量を超えて使わないでください。
 - 作業台から身体を乗り出して作業しないでください。
 - 踏みさん上では作業を行わないでください。
 - 作業台を高くするために台や箱を使って設置しないでください。
 - 作業台の上で、脚立、架台、はしご等を使わないでください。
 - 天板の端で作業をしないでください。
 - 爪先立ちや片足で立たないでください。
 - 作業中、壁を押し当たり引いたりしないでください。
 - 本体ごと転倒する恐れがあるので、補助手すり及び感知バーに体重をかけないでください。
 - 作業による応力や反力の発生が予想される場合には、転倒防止脚等を使用する転倒防止措置を講じてください。
 - 作業台を背にして降りないでください。
 - 荷物を持って昇降しないでください。
 - 天板の上に人や荷物を乗せたまま、伸縮脚の長さ調節をしないでください。
 - 天板での作業で上ばかりに気をとられて、足を踏み外さないように注意してください。
 - 手がかり棒は踏みさん昇降時の補助具です。用途以外には使用しないでください。
 - 持ち運ぶときは、引きずったり、投げたり、乱暴に扱わないでください。
 - 人を乗せたまま移動しないでください。
 - 固定機構部に、コンクリート等の付着が予想される作業に使用する場合には、あらかじめ該当部分の養生をしてください。
 - 変形した作業台を使わないでください。
 - 感電に注意してください。
 - 改造しないでください。
 - 不使用時は伸縮脚を収納してください。
 - 地面から2m以上の作業床を使用する際は、外部に墜落制止用器具等を掛け使用してください。
- [感知バーについて] 感知バーは手すりではありません。
 ・感知バーに寄りかかる等、体をあずけないでください。
 ・感知バーから身を乗り出さないでください。
 ・感知バーに足をかけたり、乗ったりしないでください。
 ・感知バーに墜落制止用器具をかけないでください。
 ・感知バーに物を寄せかけたり、乗せたりしないでください。
 ・壁面作業以外では必ず4面の感知バーを設置してください。
 ・感知バー高さを使用時位置に設置してください。

注意
塗料、接着剤、モルタル、発泡ウレタン等の付着は、全損請求となりますので、ご注意ください。

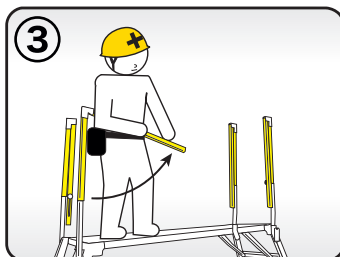
組立方法



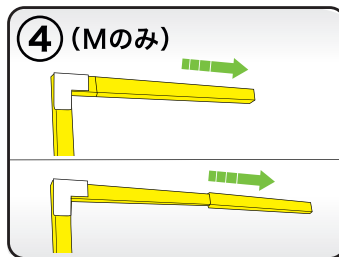
① SG ペガ500を組み立て、感知バー付き手がかり棒4本を立ち上げます。



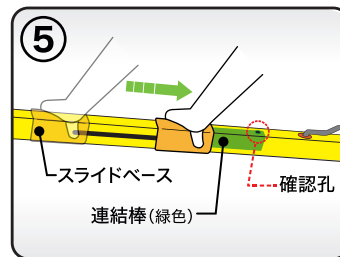
② 感知バーの高さ調整
上のボタンを押しながら縦方向へスライドし、高さを使用時の位置へ上げます。



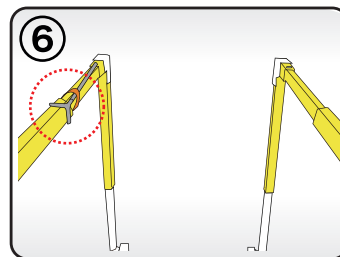
③ 手がかり棒を掴み天板に登り、本体感知バーを水平になるように起こします。



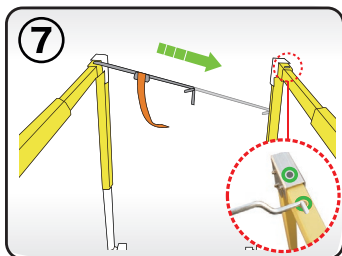
④ (Mのみ) 感知バーを横に2段階伸ばします。



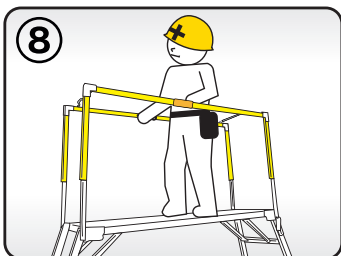
⑤ スライドベースを反対側にスライドします。確認孔で内側の連結棒が最右端までスライドしていることを確認します。



⑥ 昇降面感知バーを留めている黄色いベルトを外します。

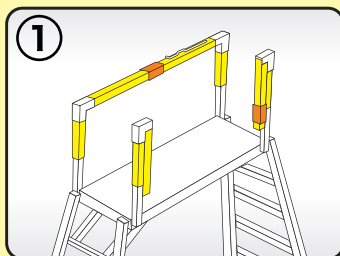


⑦ 昇降面感知バーを伸ばし、逆側の穴に挿入します。

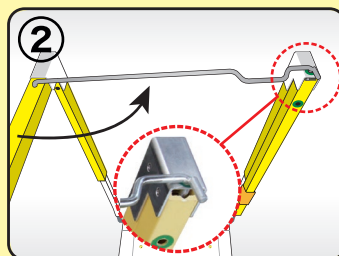


⑧ 組立完了。

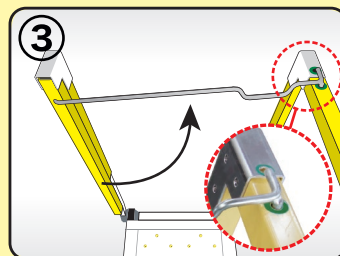
～壁面作業の場合～ 3面囲いの組立方法



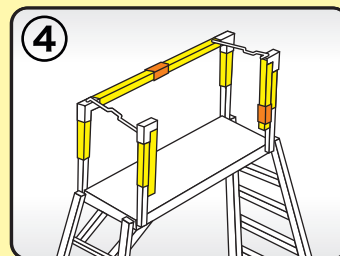
① 上記①～⑤の手順で片側の本体感知バーを組立てます。



② 組み立てた本体感知バー側の昇降面感知バーを開放側の金物上部の孔に差し込みます。



③ 開放側の昇降面感知バーを組み立てた本体感知バー上の孔に差し込みます。



④ 組立完了。

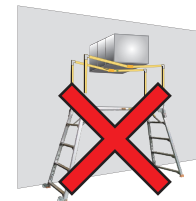
始業前点検事項

作業を始める前に必ず下記項目を点検し、異常がある場合は絶対に使用しないでください。

- (1) 「本体感知バー」「昇降面感知バー」は、損傷していないか。
- (2) 下記の各二箇所のパルト締結部に緩み・外れ等の異常はないか。
 - ① 「手掛かり棒」と「本体感知バー」
 - ② 「本体感知バー」と「昇降面感知バー」
 - ③ 「鉛直部材」と「水平部材」
- (3) 高さの固定はされているか。
- (4) 水平方向のスライドが確実に伸びているか。
- (5) 「連結棒」は、曲がったり折れたりしていないか。
- (6) 「連結棒」が完全に「本体感知バー」に挿入され、確実にロックされているか。
- (7) 連結棒の「スライドベース」に破損・変形等、異常がないか。

禁止事項

- ① 「感知バー」に寄りかかる等、体をあずけないでください。
- ② 「感知バー」から身を乗り出さないでください。
- ③ 「感知バー」に足をかけたり、乗ったりしないでください。
- ④ 「感知バー」に安全帯をかけないでください。
- ⑤ 「感知バー」に物を寄せかけたり、乗せたりしないでください。
- ⑥ 壁面作業以外では必ず4面の「感知バー」を設置してください。
- ⑦ 「感知バー」の高さを使用時位置に設置してください。



現場名			
会社名	責任者		



《製造元》
ジー・オー・ピー株式会社
〈代表〉
03-5534-1800